

2023年1月度の観察記録

カテゴリ : 2023年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2023-1-29

2023年1月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src=' " + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2023年1月8日(日) 9:30~12:15 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?13名, 子ども?5名 天気: 晴れ 風のない穏やかな年明けの第2日曜日でした。冬越しをする昆虫の様子を観察することにして、開始後久しぶりにそば畑の方へ向かいました。春を思わせる柔らかな日差しの中で、初参加の兄弟の元気な声が終始響いていました。 そば畑の方へ観察に行くのは何年ぶりでしょうか。到着するとさっそく生きもの探しが始まりました。地面には**タンポポのロゼット**がいくつも広がっていました。広場の中ほどに**マンホールのようなもの**がありました。蓋の高さが地面よりも30cmほど高く、その理由を考えました。地盤沈下のためとか地面を掘り下げた可能性などの意見が出ましたが、液状化によって土管が持ち上がる事例もあるようです。





タンポポのロゼット マンホール？ アオキの葉の裏で越冬ウラギンシジミを観察しました。翅の裏が太陽の光を受けて白く輝いて見えました。続いてカクレミノの幹にしがみついているタテジマカミキリを見ました。よく見ると左の触角が途中で欠けていました。その場所を指で示してもらってもすぐには確認することができないほど幹と一体化していました。



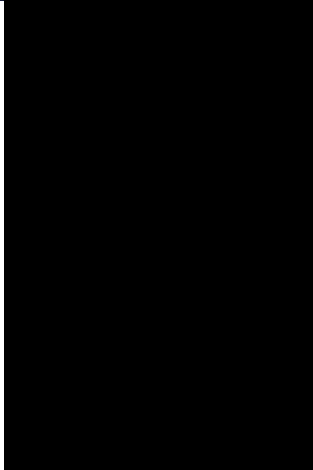
ウラギンシジミ タテジマカミキリ タテジマカミキリの観察 そのほかにも冬越し中の昆虫を見
つけようと参加者それぞれで探してみることにしました。ヒサカキの葉をそっとめくってカメムシ
の仲間を見つけた参加者がいました。



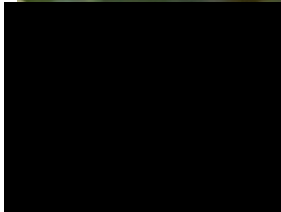
キノコの仲間 キノコの仲間 の傘 茶色い方の傘の裏には細かなひだが見られました。



キノコの仲間 キノコの仲間 の傘 そば畑のそばの木の根があり、上の方にはいくつかの実がなっていました。手が届くところには実がなかったのですが、参加者の女の子が木登りに挑戦して大きめの実を採ってくれました。みんなで食べてみることにして皮をむき始めると爽やかな柑橘の香りが広がりました。食べた人は「酸っぱい」「美味しい」など感想を口にしていました。

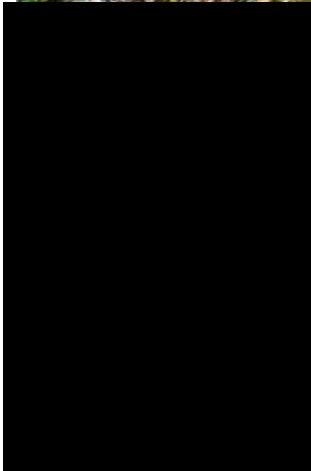


グレープフルーツ そのグレープフルーツの木についていたカマキリの卵鞘が最初は在来種のハラビロカマキリのものであったと思われましたが、残念ながらその後外来種の**ムネアカハラビロカマキリ**の**卵鞘**と判明しました。ハラビロカマキリは近年外来種に圧倒されて成虫や卵鞘を見かける機会が少なくなってしまいました。



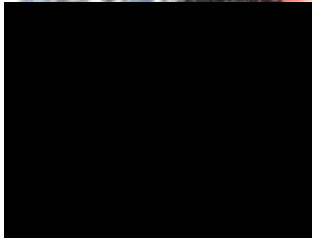


ムネアカ ハラビロカマキリの卵鞘
グレープフルーツの表のモグラ塚を観察しました。モグラ塚はたくさんあり、近いものは地中でつながっていると思われましたが、少し掘ってみてもモグラの通り道のトンネルは掘り当てられませんでした。



モグラ塚 陽当たりのいい草むらで春の七草を探してみることにしました。ナズナとハコベはすぐに見つかりました。





ナズナ ハコベ ホトケノザもあちこちで見られましたが、春の七草のホトケノザはコオニタビラコのことなのでこれは違うとのことでした。しかしそのあと**タビラコ**の仲間を見つけた参加者がありました。同定は難しいようです。ミツバはセリに近い仲間として紹介されました。セリは水辺に育つので、この辺りでは見られないと説明されました。ミツバにちなんで**キツネノボタン**も観察し、見た目はよく似ているがキツネノボタンは毒があるので誤って食べないように注意が必要とのことでした。見分けるポイントとして葉や茎に細かい毛が生えていることが挙げられました。





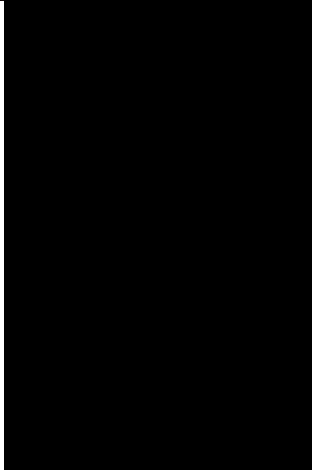
タビラコの仲間 ミツバ キツネノボタン
した。オオウラジロとコシダが繁茂していて、どちらも葉の裏が白く、鏡餅の正月飾りに利用され
るとのことでした。

里山の家の方へ戻りながら、石垣の上のシダ類を見ま



オオウラジロ コシダ

その後は中道を~~オウサキ~~実を観察しました。割れた実の中から朱色の種が顔を出していました。たくさんの種が残っていたので鳥には人気がないのかもしれないと言う参加者がいました。小学生の男の子が食べてみて「味はない」と言っていました。



マサキの実 終わりの時間が近づいていましたが、中道沿いのいくつかの木の芽を観察しました。ネジキは去年伸びた枝の部分が赤くなっていました。モチツツジは早くも新芽が伸び始めていました。ヤマコウバシは枯れた葉がまだしっかりと枝に残り、硬い冬芽が葉の付け根にひとつずつついていました。終了間際の駆け足の観察となり、冬芽についてはまた機会を改めてじっくり見たいという声が聞かれました。





ネジキの冬芽 モチツツジの新芽 ヤマコウバシの冬芽 冬の間は観察項目が少なくなりますが、植物も昆虫もそれぞれの形で春の訪れを待っています。この日はそんな姿を少し垣間見ることができました。

平和公園での観察項目：綿毛のタンポポ、タンポポのロゼット、マンホール、排水路、ハサミムシ、ウラギンシジミ、キセルガイ、ムネアカハラビロカマキリの卵鞘、キノコの仲間、カメムシの仲間、ナンテン、タテジマカミキリ、カクレミノ、センリョウ、クズのつる、ノイバラの実、モグラ塚、ミノムシ、グレープフルーツの木、オオイヌノフグリ、ナズナ、ホトケノザ、ハコベ、ミツバ、キツネノボタン、モリチャバネゴキブリ、ノビル、タバココノ仲間、ヤママユの空繭、サザンカ、ハイゴケ、オオウラジロ、コシダ、マサキの実、エノキ、ネジキの冬芽、モチツツジの新芽、コバノミツバツツジの冬芽、ヤマコウバシの冬芽
?